

- a Theoretical Study, *IEEE Trans. on COM*, Vol. COM-24, No.9, pp.1036-1043, Sept. 1976.
- [9] 嵩 忠雄他: タイムペトリネットに関する判定問題—通信制御手順の検証への一考察—, 信学論(D), Vol. J-60-D, No.10, pp.822-829, Oct. 1977.
- [10] Special Issue on Computer Network Architectures and Protocols: *IEEE Trans. on COM*, Vol. COM-28, No.4, April 1980.
- [11] 日本規格協会: JISハンドブック, 情報処理, 1980.

- [12] F. Commoner, A. W. Holt, S. Even, A. Pnueli: Marked directed graphs, *J. Computer and Systems Science* 5, Oct. 1971. pp.511-523.
- [13] 菊野 享, 吉田典可, 宇都宮秀考: ペトリネットのサブクラスの表現能力比較—ペトリネット言語による比較—信学論(D), Vol. J-60-D, No.11, pp.975-981, Nov. 1977.
- [14] 松原康夫: 容量ペトリネット, 信学論(D), Vol. J-62-D, No.5, pp.309-316, May 1979.



●創造性開発の数学モデルとCBD●

- 5月例会 日時: 5月15日(金) 場所: 22森ビル
出席者: 14名 テーマ: ガロア体について
講師: 高橋磐郎(筑波大) 司会: 池沢茂樹
ブール代数が離散的情報処理の基礎理論に利用されているが, 今後はガロア体の利用が高まっていくものと思われる. また情報処理の基本機能である照合, 分類, 検索などが, ガロア体を用いた演算という操作を通して行なえることが可能かも知れない.

●政策問題●

- 3月例会 日時: 3月28日(土) 14:00~17:00
場所: 三菱総研(タイムライフビル)会議室
出席者: 16名 講師: 齊藤 昂(防衛庁)
議題: “ライフサイクルコストにおよぼす外部環境の経過と概念についての考察”
新しいシステムの導入を計画する場合, 主にそのシステムの効率を中心に評価し導入することが多い. しかし実際はその結果生ずる外部環境とのトラブルのため, 予期しなかった立場の経費がかさみ, 場合によっては効率どころかそのシステムの生命をも左右することがある.(環境問題, 空港問題, 新幹線, 高速道路等), この研究はシステムのライフサイクルコストに, 外部環境もふくめた総合的評価の概念にアプローチした. また昨年11月A.I.Tで開かれたI.S.E.M in D.C.で共同研究者の今村教授(防大), 細貝(三菱総研)の連名で発表され, 先進国の参加者にも注目された.
- 4月例会 日時: 4月18日(土) 14:00~17:00
場所: 三菱総研(タイムライフビル)会議室 出席者: 17名
今月から, 9月の政策問題特集号に投稿する課題の読み合せと討議を重ねることになった. まずドロー

教授の論文紹介で,

1. 小林守信(山武ハネウエル)

“政策分析と外交政策の意思決定”

複雑な現在の外交問題の処理のためには, 伝統的な外交方式よりも, 広く, 長期的視野にたつてゲームの理論, ファジー処理等, 新しいシステムズ・アプローチの手法をとり入れた政策科学の有効性を述べている. (*Israel Law Review* Vol.13, 1978-2)

2. 西村三世(OR実務協会), 藤川博己(三井情報開発) “上級幹部向け政策分析ワークショップ”

上級幹部向けに政策科学的手法の演習を実施するための意義, 目的, 構想, 概要について28項目にわけて一貫コースを示したプロポーザルである.

●予測とその周辺課題●

- 第11回 日時: 4月22日(水) 18:00~20:00
場所: 早大システム研 出席者: 11名
内容: (1)文献輪読: 指数平滑 (2)急激な経済変動に対応する予測についての考察: 村中氏(運輸調査局)
- 第12回 日時: 5月20日(水) 18:00~20:00
場所: 早大システム研 出席者: 9名
内容: TIMS予測文献輪読 (1)Seasonal Adjustment (2)カルマン・フィルター

●環境システム●

- 第3回 日時: 5月20日(水) 18:00~21:00
場所: 日科技連 参加者: 4名 議題: (1)有水疆, 生物反応速度式におけるターンバイク定理について, (2)田中寿男, 福祉政策の優先度配分モデルについて
(1) 生物一般は個体間の競争を通じて生長が行なわれるが, その中心は利用可能なエネルギーの獲得にある. その際系に属するあらゆる生物が質的に同一行動をターンバイクにおいてとることが考えられる.
(2) 福祉政策の効果性と公平性が問題であり, 人々の選好をよく反映させていくことが, 人々の欲求を満たし合意の得られる政策運営を可能にする. 普通の2次計画法と Fuzzy 数理計画法での解法とその結果を示した.